

## 令和6年度 あすなろ保育園事業計画

### 【はじめに】

“新型コロナウイルス”が、5類へ移行して1年ほど経過したが、私たちの日常生活や保育園生活において、いまだ影響を及ぼしている。そのため集団での感染症対策を継続し、大切な幼少期に充実した経験ができるよう事業計画を策定検討した。コロナ感染対策制限解除により再開や追加された事業があるため、業務量過多になりすぎないように十分検討し、特に年間行事の見直しを重ねた。引き続き働きやすい職場づくりを目指していきたい。

少子化が進むものの、両親共働きが増え、育休明けや小規模施設からの転園で、0・1・3歳の待機児が多いというデータが出ている。そのため園児の受け入れ幅を増やしてほしいと依頼があるが、保育士不足もあり、受け入れを制限せざるを得ない。

しかし、近い将来保育園が淘汰される可能性があり、選ばれる保育園になるよう保育の質を高め、そのためにすべきことは何かを見極め努力を継続していく。

今、世界情勢は平和から逆行して不安要素が強い。実現可能なことから取り組み、子どもたちのモデルとしての役割を果たし社会全体で子どもを育てていくことを、創始者の理念を継承しながら進める。

### 【保育園が置かれている状況】

保育園入園に関しては、第6希望まで記述しAIを使用しての審査がスムーズとなった。指数によって優先順位が決まることから、待機児が減少・決定通知が早く届くなどのメリットはある。反面、兄弟ケースが同一保育園に入園できないなどの利用しにくさは否めない。また福島市内の潜在的な待機児解消等の施策も進み、4月には待機児ゼロを掲げているが、懸念されていた1歳児（育児休業明け）と3歳児（小規模からの転園）の待機児が多く、仕事復帰できない・転園先が見つからないなどの不安を抱えている保護者がいる。希望する保育園に入ることができなかつたとしても、AIで振り分け、4月は一時的に待機児が0になっている。しかし、年度途中の育児休業明け職場復帰するケースまでは対応できていないというのが現状である。

保育園を卒園後の学童保育利用児童が多く、令和6年度からは高学年の受け入れを調整することで利用人数の均衡化を図りたい。また、新たな課題として、一時預かり事業・地域子育て支援拠点事業が、事業区分が厳格になりつつあることで、従来の保育園の事業の一環としての捉え方が難しくなっており、職員配置や流動的な業務が困難となりつつため、多様な勤務形態に対応できるような保育所運営と人材確保、事業のバランスが課題である。

担い手である職員の更なる働き方改革を実現し、子ども・職員の笑顔を求めて納得のいく充実した保育を展開することをテーマとする。

健やかな成長を保障しすべての子どもが笑顔に ～幸福の希求～ を目指し、当保育園が安定的に運営できるようにさらに努める。

### 【運営の理念】

1. 創始者：瓜生岩子の精神を受け継ぎ、子ども・保護者のみなさまに対し、福祉の立場と真心で接する。
2. すべての子どもに対し、いつ・いかなる時でも平等に接し、人格・人権を守り大切に育てる。
3. 将来のあるべき姿を描いて、すべての子どもが自立できるような保育所保育指針に添った保育を実践する。
4. 地域とのかかわりを大切にし、実情に応じた子育て支援をする。
5. 情報を開示し、利用者のご意向に配慮した運営をする。

### 【重点事業】

創始者が提唱する理念“仁慈隠惕”を運営の指標として、現在置かれている社会情勢等を加味しながら下記の重点事業を定める。

#### 1. 質の高い保育内容と保育活動の展開

- ◆直接処遇をより一層専門的に対応する。全員が集まることのできる職員研修にて、事例をあげ直接処遇にかかわるヒヤリハット報告、危機管理報告、環境設定の見直しなど、発達・発育・年齢に合致した内容で研修を行う。子ども自らが主体的に活動しているか等、互いに研究しあう。
- ◆キャリアアップ研修等を積極的に受講し、資質の向上に勤め、スキルを高める。

## 2. 保育環境の整備

- ◆安全対策として、非常口誘導灯の改修。
- ◆全室一斉放送の音響設備の更新。
- ◆年長児が使用している“ほっとけ一きのおへや”の改修（多年にて）。
- ◆網戸の整備

## 3. 食育活動を通して子どもの健康管理推進

- ◆乳幼児期に培った食生活が一生を左右するといわれている。健康な体作りの基本となる「早寝早起き朝ごはん」を奨励すると同時に、日本の食文化（伝統的な行事食）やマナーも伝える。
- ◆以上児は、コロナ禍前のバイキング食を再開、配膳時にはマスク着用など感染状況を勘案しながら実施。
- ◆栽培と食の関係を連動させるため、畑作を充実させる。クッキング保育を実施する。
- ◆アレルギー食への対応。エピペン使用に関しては、全職員で周知し緊急時に対応できるようにする。

## 4. 子育て支援拠点事業を通して地域児童の幸福の希求

資料 2

- ◆支援センターの必要性が高いが、0・1歳の利用が増えているため、年齢に合った保育活動を充実させる。
- ◆不特定多数の人が集まるため、感染対策として人数制限は行いながら展開する。「どんぐりクラブ」・講習及び講演会「どんぐりやまセミナー」・「リトミック」・「小さな森の親子勉強会」も参加者を限定しながら実施する。

## 5. 一時預かり事業などを通して、ニーズに合わせた園児以外の保育サービスの展開

資料 3

- ◆家庭において一時的に保育を受けることが困難になった乳幼児について、保育を必要とする様々なニーズに対応し、誰もが安心して子育てができるように支援をしていく。

## 6. 放課後児童健全育成を目的とする学童保育の展開

資料 4

- ◆福島市との委託契約により、保護者が就労している間、安心して仕事ができるように専従スタッフを配置して、「とんぼ学童クラブ」を運営する（実施場所は福島市立蓬萊東小学校の余裕教室）。登録者数・利用者数は増加している。利用人数の増加に伴い、低学年（特に1年生）が利用できるよう高学年の利用を相談し制限する。

## 7. 家庭・地域・保育園が力を合わせてのネットワークづくり

- ◆保護者と保育園を結ぶ園だより「あすなろっこ」の情報を地域に発信していく。
- ◆家庭と地域、保育園が一体となって保育を展開した証として、今年度も「なにかあすなろっこ第23号」を発行。内容は数多くの笑顔を集積した写真・保護者の子育てに対する思い・理事長・親の会会長・職員の原稿などを掲載する。
- ◆保育園の魅力を伝え、就労に結びつく機会と捉え保育士・医大看護学部助産師養成校の実習生を積極的に受け入れる。
- ◆蓬萊団地を中心とする市内全域の子どもの成長を願い、地域に密着した活動を行う。中学生ドリームアップ事業の受け入れを行う。幼保小中連携事業の充実を図る。

## 8. インターネットのホームページによる情報の公開（毎月10日頃に更新）

- ◆ホームページを毎月10日頃に更新し、年齢ごとのグループや給食室の話題・情報を公開する。

【新年度体制】 ≪令和6年4月1日入園児予定 定員 60名：在籍 62名≫ 充足率：103%

ほーる	ほっとけ一き	ぐりーんほーる		みみずくほーる		ぷりんのおへや			合計
グループ	びゅーま	ちーた	しまりす	ばんび	ぼにー	うさぎ	りす	ことり	
年齢	5歳	4歳	3歳	2歳	2歳	1歳	1歳	0歳	
男	6	5	7	5	4	3	1	2	33
女	7	7	7	1	2	2	2	1	29
合計	13	12	14	6	6	5	3	3	62